

第2回「市長の秋葉区ミーティング」(区民)の概要

テーマ 『協働で進める区のまちづくり』

- ・日時 平成20年2月6日(水)
午後1時30分～2時30分
- ・会場 秋葉区役所601会議室
- ・発言者数 5名
- ・傍聴者数 33名

【発言】「里山を活用するための環境整備について」

にいがた森林の仲間の会は、12年ほど前に保全・活用についての活動を開始し、ここ2年間は、菩提寺山の登山道周辺を、風致林として約1ヘクタール整備してきた。昨年は、助成金などを使って、間伐材の処理などを効率的に行い、レクリエーション広場的な森林公園ができあがってきたので、新緑の頃に自然の良さを味わって欲しい。また、菩提寺山に至る中間に、ログハウスと炭焼き釜があり、そこを中心に地元の小学校による体験学習や、親林プログラムなどを行っている。

これらの活動で問題となっているのがトイレであり、簡易なものでよいので設置して欲しい。

(市長)

森林の仲間の会からは、里山の活用や環境教育などでご協力いただき、ありがたく思っている。

新津丘陵は、新潟市の中で貴重な里山であり、合併建設計画の中で順次整備をしていくことになっていて、整備の基本計画も平成17年度に策定された。

また、里山を活用していただくことが重要なので、近くの子どもたちから里山のない子どもたちまで、角田山と並んで新津の里山を貴重なものとして訪れてもらいたいと思っている。

トイレは、必要な施設として基本計画に盛り込まれているので、皆さんからご意見をいただきながら、タイムスケジュールを固めて整備していきたい。そのために、区役所が下準備を進めていく。

【発言】「ボランティア団体や地域団体の連携とネットワークづくりについて」

市民と行政との協働は、ボランティアの視点では「幸せづくりのお手伝い」ということになる。

現在のボランティア連絡協議会ができたのが、平成5年の4月で、事務局は現秋葉区の社会福祉協議会・ボランティアセンターにある。福祉や環境づくりなどに係わる約20のグループや団体が加入しており、「福祉・健康まつり」などを通じて、多くの人から福祉やボランティアに対する理解を深めていただいている。

これからは、高齢者や障がい者、子どもたちが明るく楽しく生き生きと集うまちづくりのため、住民団体や経済団体、福祉団体の連携、ネットワークをより深めていきたい。

(市長)

旧新潟では、市と社協が一体化しすぎていたが、今後は新津や豊栄、白根の良いところを学びながら、地域特性を踏まえた各区社協の充実をお願いしていく。そういう場合に、カウンターパートとして、ボランティア連絡協議会のように組織がまとまった形で機能しているのは非常にありがたい。

またこれからは、コミュニティ協議会も福祉のために大いに活動していただきたい。

【発言】「やさしさとふれあい、賑わいの拠点づくりについて」

ボランティア連絡協議会が目指している「やさしさとふれあいと賑わいの拠点づくり」という観点から、新津駅前に建設される(仮称)新津本町地域コミュニティセンターで、コミュニティ団体とともにボランティア団体も活動できると聞いて喜んでいる。この施設などの内容充実について、さらにお願したい。

(市長)

新年度から、コミュニティセンターの建設が始まり、皆さんの目に見えるようになる。22年度にはオープンするので、そこにボランティア連絡協議会も入って、活動を充実させていただきたい。

賑わいの面でも、商店街にある「まちの駅ぽっぽ」や「東洋館ホール」を利用して、まちの活性化や障がい者がまちへ出て活動するお手伝いをさせていただきたい。

【発言】「災害時要援護者名簿の整備と活用について」

災害に強いまちづくりということで、災害救援ボランティアセンターの設立

構想が、先日区と区社協を中心に災害防止と災害時の救援体制を確立する方向で進んでいる。ボランティア連絡協議会もボランティアの立場で協力したいと思っているが、それについての課題は、災害時要援護者名簿の整備と開示である。個人情報保護法の関係で難しいと思うが、非常時に即した対応や、市としての条例づくりなどを検討いただきたい。

(市長)

要援護者の名簿作りについては、従来の手上げ方式に替わって、今年度中に全市で同意方式による参加を募るようにしている。同意方式でも参加しなかった方については、その理由を確認し、大きな災害のときに、地域からの支援から漏れてしまう可能性があることも説明しながら、できるだけ登載率を高めたい。また、地域の皆さんが地域の情報を把握して、行政と意見交換をする方法もあると思っているので、まずは同意方式での情報収集をやり、その次にできることを考えていきたい。

【発言】「大学と地域、行政が連携したまちづくりについて」

新潟薬科大学学友会の一員として、薬科大学を皆さんに知っていただくため、地域とかかわりのあるボランティア活動を始めようと思った。

そこで、地元の若手経済人の皆さんと一緒に、新津に新しいお祭りを作るという目的から、「にいつハロウィン仮装まつり」の立ち上げに参画した。初めての催しだったので、参加者の数や当日の天候、場所の確保などが心配されたが、盛り上がったイベントとなった。

このようなことを続けながら、薬科大学のことを理解してもらい、地域に根付いた学校にしていきたい。

ハロウィン仮装まつりで一番心配だったことは、場所の確保であった。初回は新津本町二番館で行ったが、取り壊されてしまうということなので、イベントを大きくするためにも、他の場所を確保して欲しい。

(市長)

地元大学の皆さんが、地域活性化のために頑張っていることは、本当にありがたい。去年のハロウィンは初めての催しであったが、いいスタートを切っていただいた。これは、地域の中で熱意を持って核となる人がいたためだと思う。

新津本町二番館は取り壊すことになるが、代わって新津本町地域にコミセンが誕生してホールが備わるので、二番館よりは機能的となり、集会施設などに人が集まって語り合ったりできるようになるとしている。

コミセンに続いて、文化会館や体育館も合併建設計画に盛られているので、区自治協議会や区選出市議会議員の皆さんにご意見をいただいて、計画を進めていきたい。箱物もこれからできていくことを後輩に伝えてもらい、学生からも大いに活用していただきたい。

【発言】「地域における子育てサポーターの活動について」

子育てサポーターは、昭和43年より母子保健推進員として活動を始め、今年度からは、秋葉区の特色ある区づくり事業である「地域コミュニティ子育てサロン事業」の協力員として、名称を変更した。

活動内容は、親御さんたちの目を外の方に向けてもらい、地域における子ども虐待を未然に防ぐため、保健師と連携しながら、希望する家庭に訪問して相談に乗ったり、子育てサロンや子育てサークルを紹介して仲間づくりを勧めたりしている。

また子育てサロンは、おおむね中学校区に1カ所で、月に1~2回開催されており、家にこもって密室育児となりがちな親子に対して、もう一つの子育て支援のかたちが出来たのではないかと考えている。

子育てのニーズを的確に把握することができるサポーターの活動と、地域の子育てサロンを育成して支援している行政の役割が相互に働きかけ、重なり合うことによって、より良い地域の子育て支援ができるのではないかと考えている。

これに地域コミュニティの活動が加わることによって、地域全体で子どもたちを見守り、育て、支援する体制ができると考えているので、今後とも私たちの活動が長く続けられるようにご支援をお願いしたい。

(市長)

市では、完全米飯給食の実施などによって、食と健康の重要性を行政として普及させようとしている。子どもさんを宿った段階も含めて、食育が大切であるということを、しっかりと若いお母さんやお父さんになる方まで届けられるのが我々の大きな願いである。

その意味で、秋葉区の子育てサポーターのような活動の情報を、全域に普及させたいと思っている。直接訪問というものは、一番確かな方法であり、保健師などとも連携しながらやれるようになれば一番良いと思う。

皆さんの直接訪問によって、本当のニーズを把握していただいて、それを子どもに教えていただき、そしてまた全体の傾向を把握するというようなことで、出生率の向上などを目指していきたいと思っている。

地域にとって、また区や市にとって良い活動をされている方には、活動支援

費も徐々に充実させていきたいというふうに思っている。活動への補助については、公募型補助金制度もあるので、ご活用いただきたい。

活動を活発にして、さらに子どもが安心して生み育てられる秋葉区というものをつくっていただきたいと思う。

【発言】「石油遺産関連資源の活用とジオパーク構想の検討について」

石油の世界館友の会は、同館を支援することを目的に3年前から活動しており、石油産業遺産の見学会や自然観察会、講演会などを行ってきた。

昨年、金津油田の近代産業化遺産が経済産業省から認定を受け、さらに新津油田が日本の地質百選に選定された。

その資源の重要性は、区内はもちろん、広く県の内外、あるいは外国の方々からも最近では認められ、野外授業や総合学習、生涯学習などの場で利用されている。それに対して、友の会はできる限りボランティアガイドや学習支援というような形で活動している。

これらの資源を活用していくため、ポンピングパワーなどの石油産業遺産の現況を調査し、その保存や活用のための施策を講じて欲しい。また、石油の世界館の展示物の更新や周辺施設の整備、見学コースや産業遺産マップなどについて検討していただきたい

また最近、世界遺産とともにジオパーク、地質公園構想というものが注目されている。金津油田の近代化産業遺産としての保存、活用の検討と併せて、新潟市としてジオパークの実現について検討していただければありがたい。

(市長)

新潟の石油あるいは金津油田が大変注目され、また地質百選、近代化産業遺産に認めteいただいたことは新潟市にとって大きな財産であると思っている。石油の世界館を設置してからずいぶん年月も経っているということで、区役所の関係課で石油の里振興計画検討会議を設置して、検討してもらっている状況にある。

お話の中で世界遺産に並ぶジオパーク構想というものがあつたが、世界遺産というものについてももう少し認識を深めて、まずは越後のこの田園文化というものが世界遺産級ではないかということで、それを世界遺産に申請できないか検討するプロジェクトを発足させたいと思っている。

来年が新潟県、新潟市大観光交流年という位置づけで、「水と土の芸術祭」を来年の夏から3年に1回実施するが、水と土という中に燃える水、燃える土があつても面白いので、いろんな提案をしていただきたい。